

新発田市 平成 29 年度 第 1 回定例記者会見

1 日 時 平成 29 年 4 月 4 日（火）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 給付型奨励金制度の創設
- インターンシップ事業へ胎内市・聖籠町が参画
- 新規創業支援事業助成金の対象地域拡大
- 信用保証料補給率の引き上げ
- 「新発田の春まつり」
- 「しばた中心市街地ランニングフェスタ」
- 「海上自衛隊東京音楽隊コンサート」
- 「全国『花嫁人形』合唱コンクール 20 周年記念コンサート」合唱団メンバー募集
- 「琴・三絃・尺八演奏会」
- 札の辻広場のイベント「しばた軽トラ市」
- 札の辻広場のイベント「食まち新発田ラーメン縁日」
- 札の辻広場のイベント「カラダにいいこと始めよう! 健康チャレンジフェア」
- 札の辻広場のイベント「札の辻キッズランド」
- 「しばた 100 円商店街」
- 小学校 6 年生社会科出張授業「本物で学ぶ『縄文のくらし』」
- 健康ウォーク手帳と「20 万歩チャレンジ」

あいさつ

- ようやく春になりました。そして、新年度第 1 回の定例記者会見です。4 月はイベントが多くあります。少しでも記事にさせていただけるとありがたいと思っています。
- 先日、お笑い集団「NAMARA」の主催で、札の辻広場でのイベントと議場を使った映写会が行われました。
- 映写会は「ミス・ムーンライト」という作品で、全編新発田市内でロケを行ったものです。
- 全国的にも、議会の会期中以外は市民に貸し出しているという議場はないと思いますので、記事にさせていただけるとありがたいと思っています。

○この映画では、加治川の堤防の桜並木の下を自転車で走るシーンがあるそうです。まさに、これからその桜を活用したイベントが準備されているところです。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、胎内市・聖籠町との定住自立圏の取組を2つ紹介します。

○1つ目は、胎内市と連携して取り組む、職業能力開発短期大学校の学生に対する「給付型奨学金制度」の創設についてです。

○これは、「新潟職業能力開発短期大学校産業教育振興協議会」を窓口として行うもので、返済が不要な「給付型」の奨学金としては県内初の取組です。

○奨学金は、卒業後少なくとも3年間、新発田市または胎内市に居住し、地元企業へ就業することを前提としており、学生への経済的な援助と同時に、企業の優秀な人材の確保にも寄与するものと考えております。

○2つ目は、胎内市・聖籠町と連携して取り組むインターンシップ事業についてです。

○これは、市内の高校生や大学生を対象に、新発田商工会議所とともに取り組んできた就業体験事業を、今年度は胎内市・聖籠町に対象範囲を広げ、「圏域就職支援事業」として行うものです。

○より多くの学生と企業に参加してもらうことで、学生にとっては受入れ先の選択肢が広がるとともに、企業にとっては雇用確保の機会が増えることとなります。

○これらの2つの事業によって、若者の地元への定着と、企業の人材確保につながることを期待しています。

次に、中小企業の支援策を2つ紹介します。

○1つ目は、新規創業者支援事業助成金の対象地域の拡大についてです。

- これまで、市内で新たに創業しようとする事業者への助成は、対象地域を中心市街地に限っていましたが、これを市内全域に拡大します。
- これは、自宅の一部を改装して小規模な事業を始める方が増えていることなど、創業を取り巻くニーズや環境の変化に伴い、市街地だけでなく周辺地域での創業に対しても支援するものです。
- 2つ目は、信用保証補給率の引き上げについてです。
- これは、昨年度、金融機関や商工会議所などを対象にアンケートを行ったところ、約8割が信用保証率の引き上げを求めているという結果を受けて実施するものです。
- 地方においては未だ景気の回復が実感できない中、この補給率の引き上げが、中小企業・小規模企業の資金繰りの安定化や設備投資などにつながることを期待しています。
- これらの取組によって、新たに創業する事業者や、事業を拡大する企業が増加し、当市の産業全体の底上げになればと考えています。

次に、「新発田の春まつり」について

- 今年も桜の季節がやってきました。例年、この時期に市内3か所で行われる桜まつりを連携して「新発田の春まつり」として開催しています。
- 1つ目は、4月7日（金）～16日（日）に開催される「新発田城址公園桜まつり」です。
- 期間中は、新発田城をライトアップするとともに、城址公園内にぼんぼりを点灯します。また、8日（土）・9日（日）には、演歌歌手・澤敬子さわけいこさんのショーなどのステージイベントも行われます。
- 2つ目は、4月7日（金）～16日（日）に開催される「加治川桜まつり」です。

- 城址公園と同様に、ライトアップやぼんぼりの点灯を行うほか、期間中には、かつて「長堤十里・日本一」と謳^{うた}われた加治川の桜堤を会場に、ウォーキングやランニングのイベントも開催されます。
- 取り分け、去年初開催した「春^{ラン}RUN漫ジョギング大会」は、前提として外国人誘客のトップセールスがありました。
- 外国人の皆さんからの「日本といえば桜。桜の下を走ったら気持ちいいよね」というご意見を受けて開催したもので、今回、台湾から 20 名の方が参加していただけると聞いています。
- 3 つ目は、4 月 22 日（土）～5 月 5 日（祝）に開催される「大峰山山桜まつり」です。
- 会場の桜公園には、109 種類・約 300 本の桜があるほか、4 月 29 日（祝）に行われる大峰山ハイキングでは、国の天然記念物「^{とちだいら}椽平サクラ樹林」を眺望^{ちようぼう}することができます。平場^{ひらば}とは一味違った桜が楽しめるイベントです。
- いずれの会場も県内有数の桜の名所です。ゴールデンウィークまで、約 1 か月にわたって桜が楽しめる「新発田の春まつり」に、ぜひ、足を運んでいただきたいと思います。
- 新発田の春は、「花のリレー」があります。豊浦の本田地区の梅林や市島邸の梅林で梅の花が咲き、次に紫雲寺のレンギョウが咲き、次に桜が咲きます。
- 桜が終わると、あやめが咲くという、春は新発田が花でいっぱいになる、そのメインが桜まつりということになります。

次に、市制施行 70 周年記念事業を 2 つ紹介します

- 5 月 21 日（水）に、新発田の中心市街地を走るランニング・イベントを開催します。
- これは、ヨリネスしばたやイクネスしばたなど、新たなまちの魅力の誕生と市制施行 70 周年を記念して、商店会などのメンバーが中心となっている「まちなかワイワイプロジェクト実行委員会」の主催で行うものです。

- ヨリネスしばたの「札の辻広場」をスタートし、当市の特徴である長い商店街を駆け抜けて「札の辻広場」へ戻る約 5 キロメートルの特設コースで、楽しみながら走る「ファンランの部」と、仮装して走る「仮装ランの部」があります。
- 普段見慣れた商店街の風景も、ゆったりと楽しみながら走ると、新たな発見があるのではないのでしょうか。
- 小学生以上であれば、どなたでも参加できます。4 月 10 日（月）から募集を開始しますので、ぜひ、多くの市民の皆様に参加していただきたいと思えます。
- 5 月 26 日（金）には、市民文化会館で「海上自衛隊東京音楽隊コンサート」を開催します。
- 同音楽隊は、1952 年の発足以来、オリンピックや世界陸上競技会、万国博覧会などの国際的なイベントに参加しており、実力は折り紙つきです。
- また、「海上自衛隊の歌姫^{うたひめ}」と呼ばれる三宅由佳莉^{みやけ ゆかり}さんは、全国に熱心なファンがいて、各地の演奏会でも大変な人気を博していると聞いています。
- 5 月 8 日（月）まで申込みを受け付けています。この機会にぜひ、素晴らしい演奏をお楽しみいただきたいと思います。

このほかの情報としては、「全国『花嫁人形』合唱コンクール」の 20 周年記念コンサートに出演する合唱団のメンバー募集や、西新発田高校が初出演する「箏・三絃・尺八演奏会^{こと さんげん しゃくはち}」があります。

また、札の辻広場でのイベントとして、今年度最初の「軽トラ市」や、県内外の 8 店舗が出店する「食まち新発田ラーメン縁日」、スポーツやストレッチなどを体験できる「健康チャレンジフェア」、巨大ダンボール迷路などが登場する「札の辻キッズランド」があります。

さらに、お馴染みの「しばた 100 円商店街」や、本物の土器に触れて「縄文時代の暮らし」を学ぶ出張授業、ウォーキングに役立つ「健康ウォーク手帳」と「20 万歩チャレンジ」があります。

ぜひ、1 つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

新年度の市政運営について

毎日新聞 今年度の市政運営をどのようにしていきたいか。

市長 自身の性格として、何か気負うようなタイプではない。淡々と引き継いでいくというタイプなので、「これ」ということはないが、新年度は「人づくり」「しばたの心」をキャッチフレーズに用いている。市制施行 70 周年という記念すべき年であるので、普段よりは少し肩に力が入っていると思うが、次の 100 年に向けてスタートが切れる年にしたいと思っている。

給付型奨学金制度について

毎日新聞 募集定員は。

市長 10 名である。

毎日新聞 いつから募集開始か。

市長 4 月からである。職業能力開発短期大学校は、文部科学省管轄の大学ではないので、国の奨学金制度を受けられない。以前からそういった声を聴いていたので、胎内市と相談して、定住自立圏の事業として、手を差し伸べようという話がまとまった。大学校自体が小さいので、十分要望に応えられる人数ではないか。

毎日新聞 今現在、申請者はいるか。

市長 事業が生まれる背景として、何年か前に経済的な理由で学校を辞めざるを得なかったという事例があり、この制度を立ち上げた。今回、まだ申請は受けていない。始まったばかりなので、学校の事務局を通じて、学生に呼びかけているところではないか。

新潟日報 聖籠町が入っていないのはなぜか。

市長 聖籠町は独自の奨学金制度を持っているので、二重の制度にするわけにはいかないということになった。新発田市は、東京の育英会の寮に支援はしているが、給付型の奨学金制度は持っていなかった。

朝日新聞 県内初というのは、職業能力開発短期大学校に対する給付型としては県内で初めてということか。

市長 他の学校については、調べきれなかったが、職業能力開発短期大学校は県内に1つしかないので、県内初であることは間違いない。また、全国的に見ても、職能短学に最初から給付するという形は、おそらくないのではないか。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構も実態を把握していないようで、市で調べた範囲では全国初ではないかと思う。

インターンシップ事業について

新潟日報 参加する企業の数。

市長 41社である。

新潟日報 聖籠町と胎内市へ範囲を広げたことで、去年と比べてどのくらい増えているのか。

市長 今年度からスタートなので、これから広げていこうということである。学校は、中条高校、開志学園、ジャパンサッカーカレッジに声をかけている。

中田町の油田跡からの原油・ガス噴出について

新潟日報 間もなく作付けの時期だが、現状と今後の見通しはどうか。

市長 事業者と地権者で話し合いが行われたと聞いている。被害面積等で折り合いがつかなかったようで、補償を含めて最終的な決

定はされていないようである。代掻きなどで、畔に付着した油が低いほうへ流れるので、約 2 町歩くらいの範囲に影響を及ぼすのではないかという地元の声があり、それに対して事業者の補償をどうするかという決定はされていないと聞いている。

新潟日報 市としてはどのように対応するのか。

市長 拡散しないように止めるということである。当該事業者の技術ではできないため、大手の掘削業者に頼んで、管の入れ替えをしたうえで塞ぐ必要があると聞いている。補償については、事業者と農業者の皆さんの問題であるので、今のところ推移を見守っている。

西新発田駅のパークアンドライドについて

北陸工業 当初予算に整備にかかる意向調査の費用が上がっていると聞いたが、今後の事業の見通しはどうか。

市長 第 1 期目からの公約であるので、ぜひ取り組みたいと思っている。市有地もあるのが、今のままでいいのか、もう少し広げた形のパークアンドライドがいいのか調査したい。

第四銀行と北越銀行について

新潟日報 両行が、経営統合に向けて交渉しているということが明らかになり、新発田市の経済にどのような影響があるかと考えるか。

市長 経営統合によって、新発田市の経済に影響があるということまでは考えられない。前年度から市税を 2 億 5 千万円ほど上乗せした。平成 19 年度から減り続けて、10 年ぶりにやっと前年度を上回った。アベノミクスの影響というよりは、市民の皆さんが現状に慣れて、そこから反発して頑張ったことで、少し景気が良くなってきたのではないかと聞いている。結果として地域経済を潤す、地域経済に貢献する経営統合であってほしい。

組織犯罪処罰法改正案について

新潟日報 今国会で争点になっている「テロ等準備罪」について、市議会でも意見書が可決されたが、市長はどのように見ているか。

市長 基本的に国政での議論である。市議会では「慎重に議論してほしい」という願意について賛意するという討論があった。議会の大勢としては、賛成・反対ではなく、慎重に議論してほしいというところに願意を見ているようである。私自身も慎重に議論してほしいと思う。基本的には国政での議論を待つべきで、新発田市長としてコメントするのは適切ではないと思っている。

新潟日報 憲法で保障された思想・良心の自由を侵すのではないかという懸念もあるが、その点についてはどうか。

市長 そこまで精査はしていない。国際組織犯罪防止条約批准の条件となるようであるが、野党は今までもおりでもできるとしており、自民党は法を改正しない限り条約に参加できないとしている。どちらが正しいのか、私は条文も見っていないので賛成も反対も、コメントのしようがない。ただ、慎重に議論してほしい。